



国有林モニター会議を開催 ～ 間伐箇所、製材工場を視察～

9月5日、平成27年度国有林モニター会議を大分県日田市外で開き、5人のモニターに参加いただきました。

モニター会議は現地視察や意見交換会を通じて、モニターの皆様と一緒に国有林の取り組みを理解していただくとともに、より身近な存在として認識していただくことを目的に2004年度より毎年、開いています。

今年度はモニターの皆様に対し、事前にお問い合わせいただいたアンケートの結果を踏まえ、モニター会議を大分西部森林管理署管内にある間伐事業箇所および製材工場(株式会社日田十条)で行い、木材の生産から加工までの流れを中心に、視察していただきました。



質疑応答や意見交換会の様子

午前中は大分県九重町の国有林内において、間伐箇所の現地視察を行い、田代今朝広大分西部森林管理署次長と鞭馬一郎総括森林整備官から説明を受けました。
午後からは製材工場へ移動し、株式会社日田十条の瀬戸亨一郎専務取締役から、山で伐採された丸太が住宅部材の製品になるまでの加工工場の工程を、説明していただきました。間伐事業箇所や製材



間伐箇所を視察しているモニターの皆さん



熱心に説明を聞くモニターの皆さん

その後、大分西部森林管理署会議室において、全体を通して工場を訪れたことのないモニターの皆様は、熱心に聞き入っていました。
「質疑応答や意見交換会を行いました。」
モニターの皆様からは「普段見ることのできない間伐箇所や製材工場を視察する事ができて有意義だった」「製材工場の機械化に驚いた」「製材工場内の倉庫や事務所など大きな建物にも木材が使われていて、木材利用の可能性を感じた」などの感想をいただきました。
参加者からの貴重な意見や感想は、今後の国有林野の管理経営に活かしていくことにしています。

(担当)企画調整課



製材工場で説明を受けているモニターの皆さん

綾照葉樹林プロジェクト 10周年フォーラム開催

2005年5月、九州森林管理局・宮崎県・綾町・てるのはの森の会・日本自然保護協会の5者が協定を結び、照葉樹林の保護と復元を大きな柱とする「綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画」（綾の照葉樹林プロジェクト）がスタートして今年で10年が経過しました。

このプロジェクトにおける10年間の検証と今後の展望について、地域住民の方々を交え意見交換を行うとともに、本プロジェクトに対する一層の理解を深め



フォーラムに集まった参加者

ることにより、今後のプロジェクトの推進を図ることを目的に「綾の森が歩んだ10年、これからの10年」と題し、記念フォーラムを9月5日に綾町の高年者研修センターにおいて約190人が参加の中、開かれました。フォーラムの第一部は、九州森林管理局の中山浩次業務管理官、宮崎県の内田欣也副知事のあいさつの後、崎野健輔宮崎森林管理署長が綾プロの概要および各種取り組みについて報告。綾プロと兄弟プロジェクトと言われる関東森林管理局での「赤谷プロジェクト」の取り組みについて「赤谷森林ふれあい推進センターの藤澤将志所長の基調報告が行われました。第二部では、地域住民の方々の質問や提案を通して今後の綾プロの在り方やいかに地域に根ざした活動としていくのか考えるため、綾町民5人、綾プロの協定者5人による「綾プロの10年」そこが聞きたい！これが言いたい！と題したパネルディスカッションが行われま

した。この中では、「綾プロの活動を通して、町民が綾の良さに気づくことができた」「綾プロの町内への浸透をもっと図るべき」など、活発な意見が出されました。

最後に日本自然保護協会の亀山章理事長、綾町の前田穰町長のあいさつにより閉会となりました。

（担当：計画課）

南那珂農林振興局と意見交換会

【宮崎南部森林管理署】地域の森林・林業・木材産業の動向や課題などの情報を共有し、連携して地域の森林・林業の再生に取り組んで行くため、宮崎県南那珂農林振興局と「地域の森



意見交換会の様子

林・林業の再生に向けた意見交換会」を開きました。

交換会では、主伐・再造林の拡大などにより苗木や穂木が不足していることや、おが粉の原材料が不足し、地域の基幹産業である畜産業に深刻な影響を与えていることなど、さまざまな課題が取り上げられ、このような課題に対して国有林としてどのような対応が出来るかなど、活発な意見交換を行いました。

今後、さらに連携を深め、双方が協力し、地域の森林・林業の課題解決のために取り組むことを確認して終わりました。

猟友会と連携して囲い農舎

【大分西部森林管理署】シカ食害の拡大は止まることなく、近年は高標高地へと広がりをみせており、阿蘇くじゅう国立公園指定地でも被害が顕著になっていきます。これらの被害地では自然条件の厳しさから、失われた生態系は容易には戻りません。

シカ被害対策には、シカを減らす捕獲が欠かせません。しかし、年間を通じて登山や森林浴を目的に多くの人が訪れる自然公園などでは、入林者への配慮などから捕獲が進



囲い罠を設置する狩猟会メンバーら

まない場合もあることから、捕獲に対する理解を深めていただくために会議などを通じて被害の現状説明を行っているところです。

当署では、くくり罠による捕獲を進めています。今回、地元猟友会の協力を得て、別府市の鶴見岳国有林（国立公園内）で「囲い罠」による捕獲に取り組むこととなりました。罠は、実績のある宮崎北部森林管理署の指導を受けて県・市・猟友会と合同で設置し、猟友会で捕獲を行ってもらうことにしています。

今後も地域の理解と協力を得ながら、情報交換や技術の提供を行い、地元と一体となったシカ被害対策を講じていくことにしています。

新任局長会見 記者会見

新たな木材需要創出に取り組む CLTの開発・普及に努力

8月7日付で着任した、測上和之局長の新任記者会見を、9月1日、各報道機関（一般紙6社、専門紙3社）が出席し、局長室において行われました。

会見では、冒頭、測上局長より、就任あいさつの後、1983年農林水産省入省、広島県農林水産局農林整備部長や林野庁では木材産業課長、業務課長、経営企画課長を務めたことなど、自身の経歴を説明しました。

その後、九州森林管理局の重点取組事項のポイント、国有林野事業の主要取組事項、九州の



一般紙6社に会見を行っている様子

森林について、新たな木材需要の創出についてなど、これから取り組むの抱負を述べました。特に、新たな木材需要の創出については、①「CLTの開発・普及について」CLTの説明・メリット、海外における利用事例、普及に向けたロードマップ②「公共建築物等の木造化・内装木質化について」空港施設や駅舎施設などでの利用状況③「耐火部材等の開発・普及について」耐火集成材、2×4の耐火部材、LVLを活用した建築事例④「五輪施設での木材利用について」過去開催されたオリンピック関連施設や国内の木造スポーツ施設などでの利用状況を説明しました。

最後に、記者との質疑応答が行われ、CLTの普及やバイオマス発電に係る国有林の対応、主伐・再造林への取り組みなどについて、質問がありました。

測上局長からは、「CLTは今後本格的な普及が期待されることから、国有林も木材供給を通じて協力したい」「政策的なバイオマス発電への木材供給は、



専門誌3社に会見を行っている様子

縮結し、名称を「未来の源・遊々の森」と命名しました。

協定締結当日は、食とみどり、水を守る熊本県民会議長の久保研一氏が当署を訪れ、調印しました。

今回の協定は、子ども達が体験活動を通じて森林の役割やそれを管理する農林業の大切さを学ぶとともに、地下水かん養の手助けを行うことを目的としており、子ども達への森林教室や間伐・枝打、植物観察会などを行うことにしています。

素材生産業者育成も含め取り組んでいく」「主伐・再造林への取り組みについては、新たな林業のサイクルを作っていきたい」など、具体的に丁寧な回答がありました。

その他にも、局長の趣味の登山や家族構成についても質問があり、終始和やかな雰囲気の中で、記者会見を終了しました。

(担当：総務課)

「未来の源・遊々の森」 協定を締結

【熊本森林管理署】当署会議室において、食とみどり、水を守る熊本県民会議と熊本森林管理署との間で「遊々の森」協定を



協定締結を終えた両者

【佐賀森林管理署】当署管内の遊々の森において、夢みることも基金主催のイベント「自然教

遊々の森で自然教室



記念植樹の様子

室」が行われました。

イベントには同基金が「わたしたちのかなえたい夢」と題して絵や作文を募集し、上位入選した全国の小中学生11人をはじめ、同基金により設立されたパングラデシユの中学校からの5人を含めた関係者など約70人が参加し、森林の果たしている役割や森林散策、秘密基地作り、記念植樹などに楽しそうに取り組んでいました。

閉会にあたり、パングラデシユの方から「日本の森林の豊かさに驚いた。とても充実した1日だった。子ども達は今日の体験を生徒忘れずにはないだろう。」と感謝の言葉を受けました。

ナイストライ事業を受入 熊本市内中学校2校が参加

今年度も、熊本市立北部中学校と京陵中学校の2校から、「ナイストライ事業」受入の要請を受けたことから、各校の2年生を対象に、職場体験学習を行いました。

北部中学校は、男子2人女子2人の参加により、9月8日から10日までの3日間、京陵中学校は、男子3人女子2人の参加により、9月15日から17日の3日間、森林管理局や現場において業務を体験しました。

1日目は、松永貞也総務課長補佐より、森林管理局の組織



現地実習で講師の説明を受ける北部中生徒

や業務内容について説明を受けた後、「今日の新聞から」に使用する新聞記事の切り抜きを行いました。

その後、北部中学校の生徒たちは、局においてGPSの使い方の実習や、広報室保管のビデオ整理など行いました。また、京陵中学校の生徒たちは、測上和之局長との懇談を行った後、監物台樹木園に移動し、GPSの使い方の実習、園内の巡視や清掃を行いました。

2日目は、阿蘇の大野国有林において現地実習を行い、登山道の状況を確認する森林パトロールやGPSを使って国有林境に設置されている境界標を探しながら、境界の異常の有無などを確認していく境界巡検を体験しました。

生徒たちは、GPSに表示された境界標の位置が、現地と合っていることに驚くとともに、日頃山登りをしたことがないことから、この現地実習を楽しんでいる様子も見られました。

最終日は、森林管理局で3日間の職場体験の内容を取りまと



広報誌の作成に取り組む京陵中生徒

めた各校の広報誌を作成しました。生徒たちは、誌面の構成や写真の選択に頭を悩ませていましたが、広報誌が思ったように出来上がると、満足した様子でした。

このナイストライ事業は、心身ともに大きく成長する中学生の時期に、地域や自然の中で職場体験などのさまざまな体験活動を通じて、勤労観・職業観や感謝する心をはぐくみ、「生きる力」を育成することを目的に行われています。

3日間の短い職場体験でしたが、参加した生徒たちが、この体験を今後の「生きる力」に生かしてもらえることを願いながら、職場体験学習を終了しました。
(担当＝総務課)

「福地ダム夏休み自然体験」 「安波ダム・クイナまつり」に参加

【沖縄森林管理署】8月29日福地ダム周辺で東村総合祭りの一つとして「福地ダム夏休み自然体験」が、また、9月12日に安波ダム周辺とやんばる学びの森で「安波ダム・クイナまつり」が開かれ、当署も参加しました。

普段は入ることのできないダム施設の見学や、ダム湖遊覧、カヌー体験、丸太切り体験などができるとあって、まだまだ暑い日差しが降り注ぐ中、当日の両会場は多くの参加者で賑わいました。

当署が行った主なイベント
《丸太切り体験》体験後は丸太を切ってきた物と、あらかじめ職員で準備したコースターや



森林クイズに挑戦する親子＝福地ダム

《紙トンボ作り》保護者の方や職員に手伝ってもらいながら作成に取り組み、家族や友達同士で飛ばし合いをしていました。手伝いをしていっうちに紙トンボ職人と化した職員は、指導を忘れ飛ばし合いに参加していました。(あくまでも指導の一環として・・・)
《森林パネル展・森林クイズ》お子さん、親御さんから年配の方まで幅広い年齢層から参加していただき、やんばるの森の魅力と森林整備の意義について、改めて認識を深めることができました。



キーホルダー作り＝安波ダム

心の健康づくり講話を開催

うつ病についてきぼう

9月29日、局大会議室において局の「心の健康づくり相談員」である桜ヶ丘病院医師 村尾憲優氏を講師に招き、「心の健康づくり講話」を開きました。

この講話は、局の「心の健康づくり実施計画」に基づく本年度2回目の講話で、各森林管理署長等や局内職員約80人が参加しました。

人、過去12カ月間に約50人に1人がうつ病を経験していることや大うつ病の診断基準は、必須症状として①気分が沈む②物事を楽しめない。身体症状として①食欲がない②睡眠障害③動作や考えがゆっくりになる④疲れやすい、気分低下。精神症状として①罪の意識を感じる②決断できない、思考力・集中力の低下③死にたくなるの各症状9項目をPRし、間伐材を用いた製品を表示する間伐材マークの適切な使用を通じて、間伐推進の普及啓発および間伐材の利用促進と消費者の製品選択に資するもの』と聞いています。モニターになった初めて間伐材マークのことを知りました。



福村計幸さん



皆さんは間伐材マークをご存じですか？間伐材マークの説明ができますか？間伐材マークは、『間伐や間伐材利用の重要性な

私の趣味の一つに山歩きがあります。今年もくじゅう山開き

森林・林業 国有林のPRを

のだろうかと思渡しながら歩いてみると九州森林局の杭を探ることができました。幼い頃から自然が好きだった私にとっては、国有林を見ることができて何となくホッとしました。地球温暖化の防止や生物多様性の保全な

（大分県国東市在住）



「心の健康づくり相談員」の桜ヶ丘病院村尾先生

目のうち、必須症状を一つ以上含み、五つ以上の項目を満たし、2週間以上、ほぼ毎日、ほとんど一日中症状が続いていると、うつ病と診断されること。

また、上司と部下が同じ方向を見ることで、双方向のコミュニケーションが成立し、心と行



熱心に講話を聞いている職員

できればと願っています。
（担当：総務課）

人のうごき

10月1日付林野庁長官発令

計画保全部企画官(財産管理担当)

峰内浩昭(福岡森林管理署次長)

計画保全部治山課流域保全治山対策専門官

山内 正(計画保全部治山課設計指導官)

福岡森林管理署次長
有蘭敏行(大分森林管理署次長)

佐賀森林管理署次長

佐藤敏郎(鹿児島森林管理署次長)

大分森林管理署次長
廣田忠善(佐賀森林管理署次長)

鹿児島森林管理署次長

矢島欣也(計画保全部企画官(財産管理担当))

10月1日付森林管理局長発令
屋久島森林生態系保全センター
自然再生指導官

永山博美(技術普及課企画係長)

技術普及課企画係長
田中 幸(熊本署事務管理官)

鹿児島署主任森林整備官

下村治雄(鹿児島署首席森林官)

熊本署事務管理官
江藤香織(熊本署地域技術官)

熊本署森林整備官
猪俣真由美(熊本署地域技術官)

大分署森林整備官
高倉博文(大分署森林官)

佐賀署地域技術官

小中原葵(佐賀署)
鹿児島署首席森林官

山本 正(鹿児島署森林官)
鹿児島署森林官

黒谷幸樹(鹿児島署主任森林整備官)

(担当)総務課

◇退職◇
長期間の苦勞を承知した

◇定員内職員◇

9月30日付森林管理局長発令
片岡 猛(佐賀署)

(担当)総務課



盆裁でよく見かける亜高山に生える雌雄同株の常緑針葉樹です。日本には、福島県以南の山地に生え、日本北部のキタゴヨウ

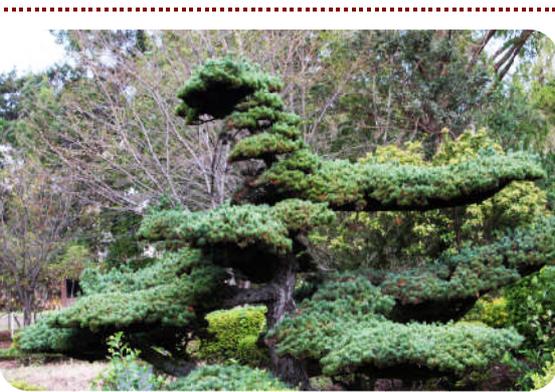
95 ゴヨウマツ(マツ科)

ウマツと屋久島、種子島のヤクダネゴヨウとそれぞれ棲み分けられています。

名前は、その葉が5本ずつ一束をしているからといわれ、ヒメコマツが別種のように考えられています(牧野、保育社)。マツカサがあったらしっかり観察しましょう。

マツカサの各片の両縁先が内巻きにして特異な形となっています。樹木園入口東側で類似のヤクダネゴヨウのマツカサを拾うことができます。

ゴヨウマツはアカマツ、クロマツと同じくマツカサは翌年の秋に熟し種子ができます。ゴヨウマツの種子はつるんとした球形(平べったい楕円形)で、地



面をこころ転んで種子散布をするよう工夫され、アカマツ、クロマツは風により散布するよう翼が付いています。樹木園には盆栽、庭木として入り口中央の盆栽置場付近、西側奥に植えられています。



最近、朝夕めっきり涼しくなり、過ごしやすい気候になってきました▼季節の変わり目には体調を崩しがちです▼体調管理には充分気をつけて下さい▼私達の職場では、ハチや毒蛇など外にも気をつけなければならぬものがあります▼先日の新聞に、中国原産のスズメバチ「ツマアカスズメバチ」が北九州市で確認されたとの記事がありました▼これまで、対馬には定着していましたが、それ以外で確認されたのは初めてです▼このハチは攻撃的で、高い木に大きな巣を作り、巣を刺激すると執拗に人間を追尾し襲ってくるのです▼また、マダニにかまれ感染するマダニ媒介性疾患が、ここ数年急速に広がっており、日本紅斑熱の症例が昨年は全国で240人にもなり、今年は4月と9月に死者も出ました▼同様にマダニが媒介するSFTS(重症熱性血小板減少症候群) ウイルスに感染・発症した場合、約30%の確立で死亡するそうです▼相手は小さな虫達ですが、くれぐれも油断せず、十分注意して下さい。

(も)